

2006年3月期 決算説明会



2006年 5月11日

ホームページ <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

問い合わせ先: 事業管理室 栗原 義弘

e-mail: yoshihiro_kurihara@yachiyo-ind.co.jp

TEL (04)2954-7331

決算報告

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

中期経営計画

代表取締役社長

大竹 茂

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

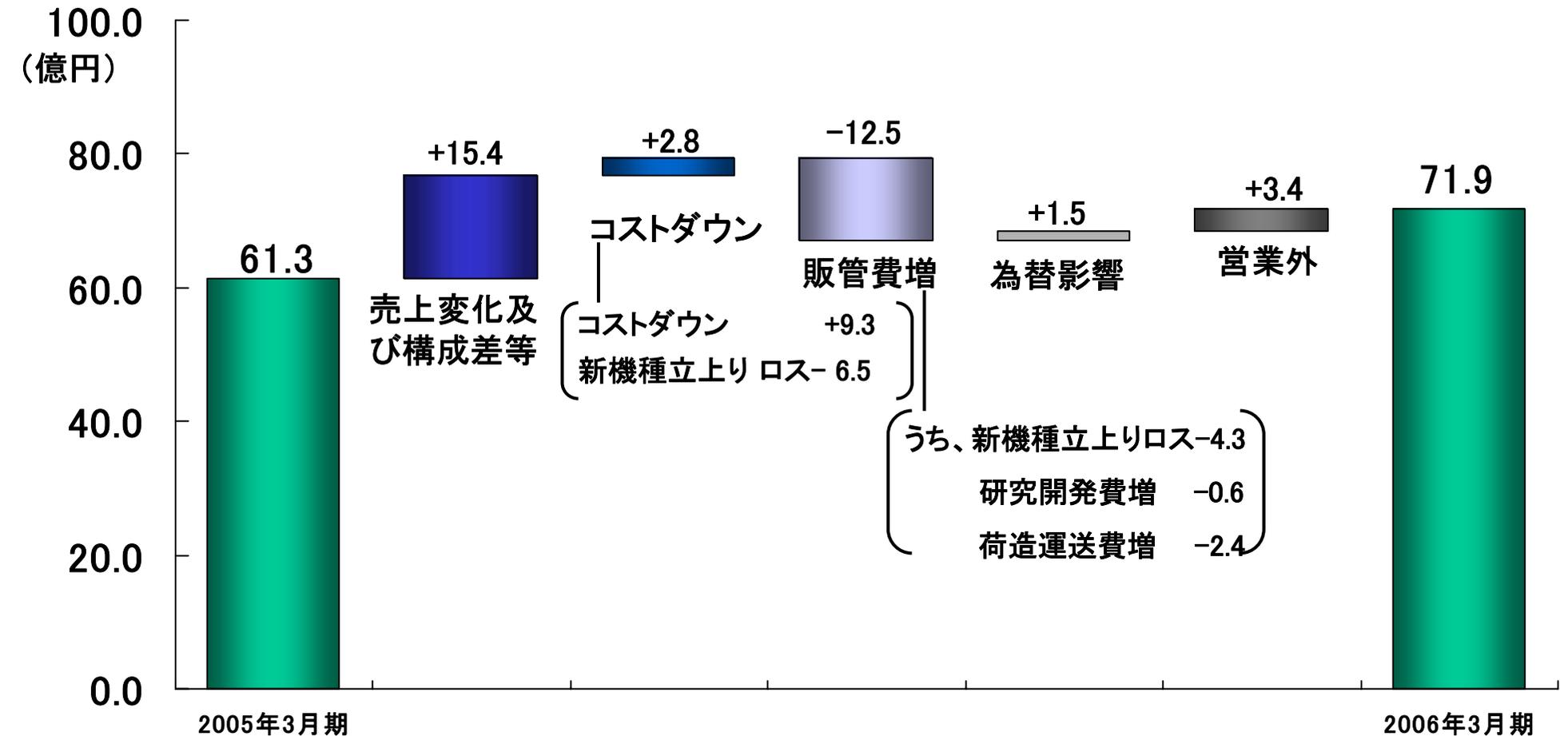
2006年3月期 決算報告

- ◆ 連結業績
- ◆ 連結貸借対照表
- ◆ 連結キャッシュフロー
- ◆ 単独業績

	2005年3月	2006年3月	増減 (伸び率)	コメント
売上高	2,762億円	2,828億円	+65.3億円 (+2.4%)	—
完成車事業	1,355億円	1,307億円	-48.3億円 (-3.6%)	生産台数 -1.4万台減
部品事業	1,407億円	1,521億円	+113.6億円 (+8.1%)	国内 売上増 +16.8億円 北米 売上増 +60.5億円 アジア売上増 +36.3億円
営業利益 (対売上高比率)	58.3億円 (2.1%)	65.5億円 (2.3%)	+7.2億円 (+12.3%)	売上変化及び構成差等 +15.4億円 コストダウン +9.3億円 新機種立上がりロス -10.8億円 荷造運送費の増 -2.4億円 販管費の増等 -4.3億円
経常利益 (対売上高比率)	61.3億円 (2.2%)	71.9億円 (2.5%)	+10.6億円 (+17.3%)	営業利益の増 +7.2億円 持分法投資損益 +0.9億円 為替差損益 +1.0億円 金融収支の改善 +1.4億円
当期純利益 (対売上高比率)	33.5億円 (1.2%)	36.9億円 (1.3%)	+3.4億円 (+10.2%)	経常利益の増 +10.6億円 固定資産除却損の増 -0.3億円 利益増に伴う税金の増 -5.3億円 少数株主利益の増 -1.6億円

2006年3月期 経常利益変化(連結ベース)

売上高	2,762.5	+65.3	2,827.8
(完成車事業)	(1,355.5)		(1,307.2)
(部品事業)	(1,407.0)		(1,520.6)



売上高

	2005年3月	2006年3月	対前年度伸び率
連結売上高	1,355億円	1,307億円	-3.6%

生産台数

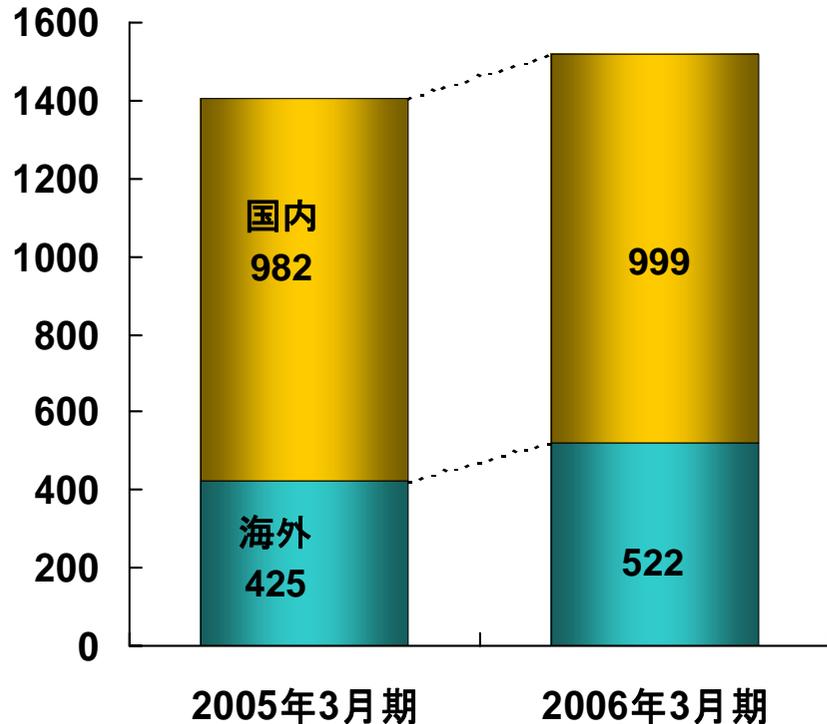
	2005年3月	2006年3月	対前年度伸び率
生産台数合計	21.9万台	20.6万台	-6.2%
ゼスト	—	1.8万台	—
ライフ	13.2万台	11.2万台	-15.6%
アクティ	8.7万台	7.6万台	-12.6%

売上高

	2005年3月	2006年3月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	1,407億円	1,521億円	+8.1%

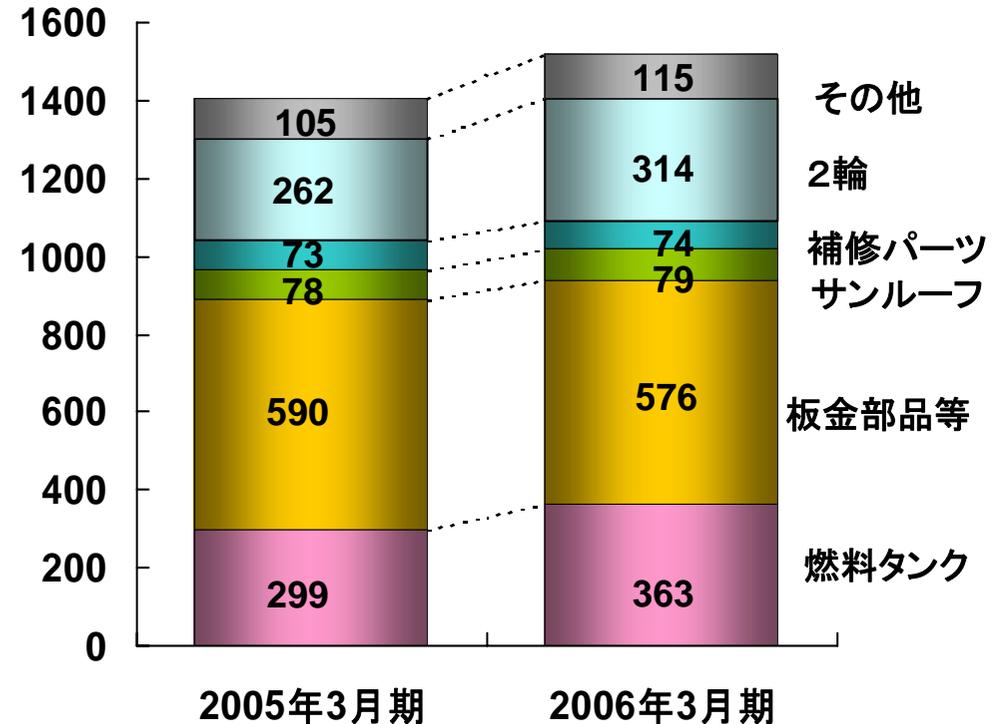
国内／海外区分

(売上高:億円)



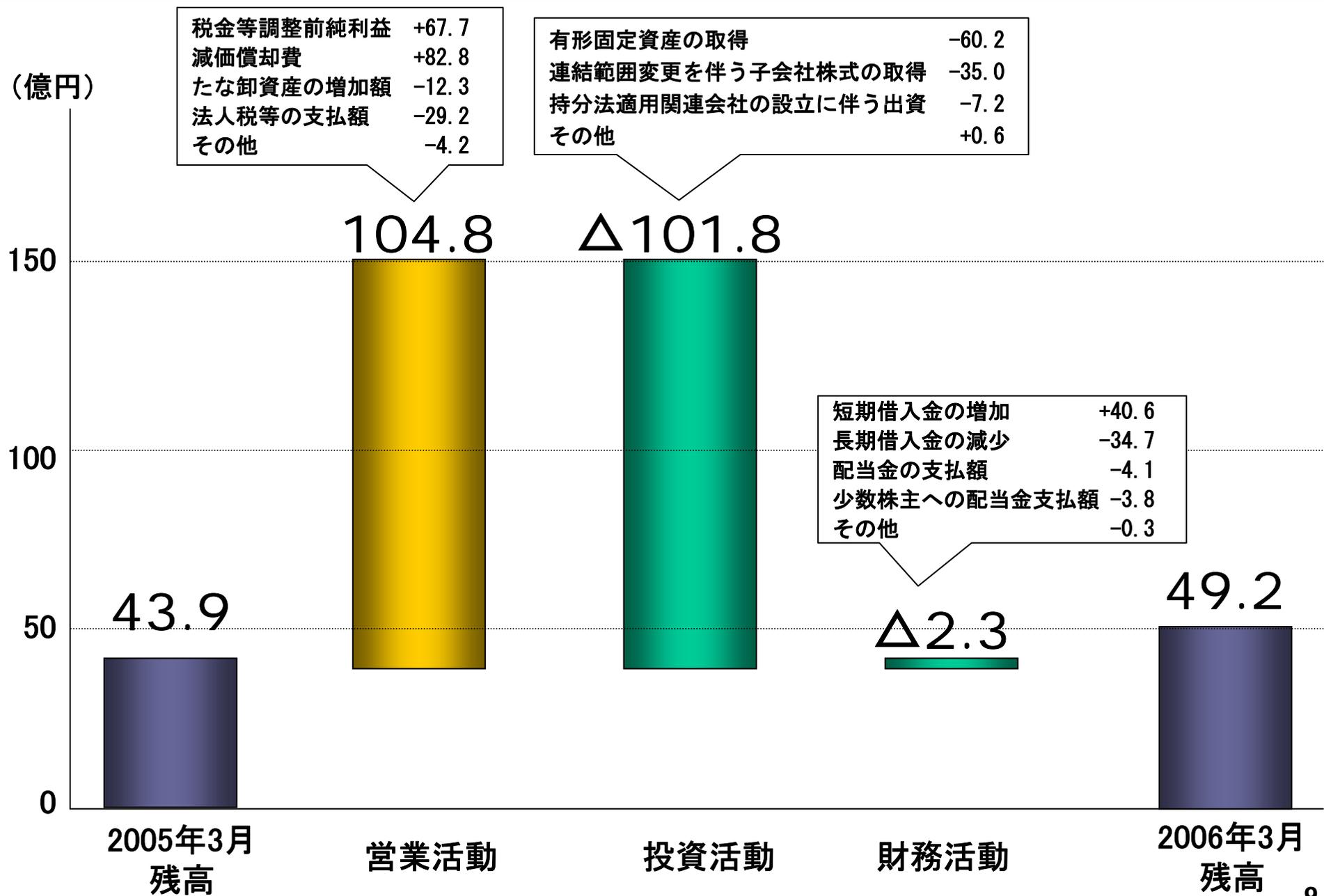
部品別区分

(売上高:億円)



	2005年3月	2006年3月	増減 (伸び率)	コメント
総資産	1,074億円	1,204億円	+130億円 (+12.1%)	売上債権の増 +36億円 在庫の増 +17億円 有形固定資産の増 +26億円 投資有価証券の増 +15億円 連結調整勘定の増 +23億円
株主資本	294億円	357億円	+63億円 (+21.3%)	当期純利益 +37億円 配当による減 -4億円 有価証券時価の増 +11億円 為替換算調整勘定 +19億円
有利子負債	296億円	308億円	+12億円 (+4.1%)	—
株主資本比率	27.4%	29.6%	+2.2P	—
1株当り 株主資本	1,224円	1,485円	+261円	—

連結キャッシュフロー

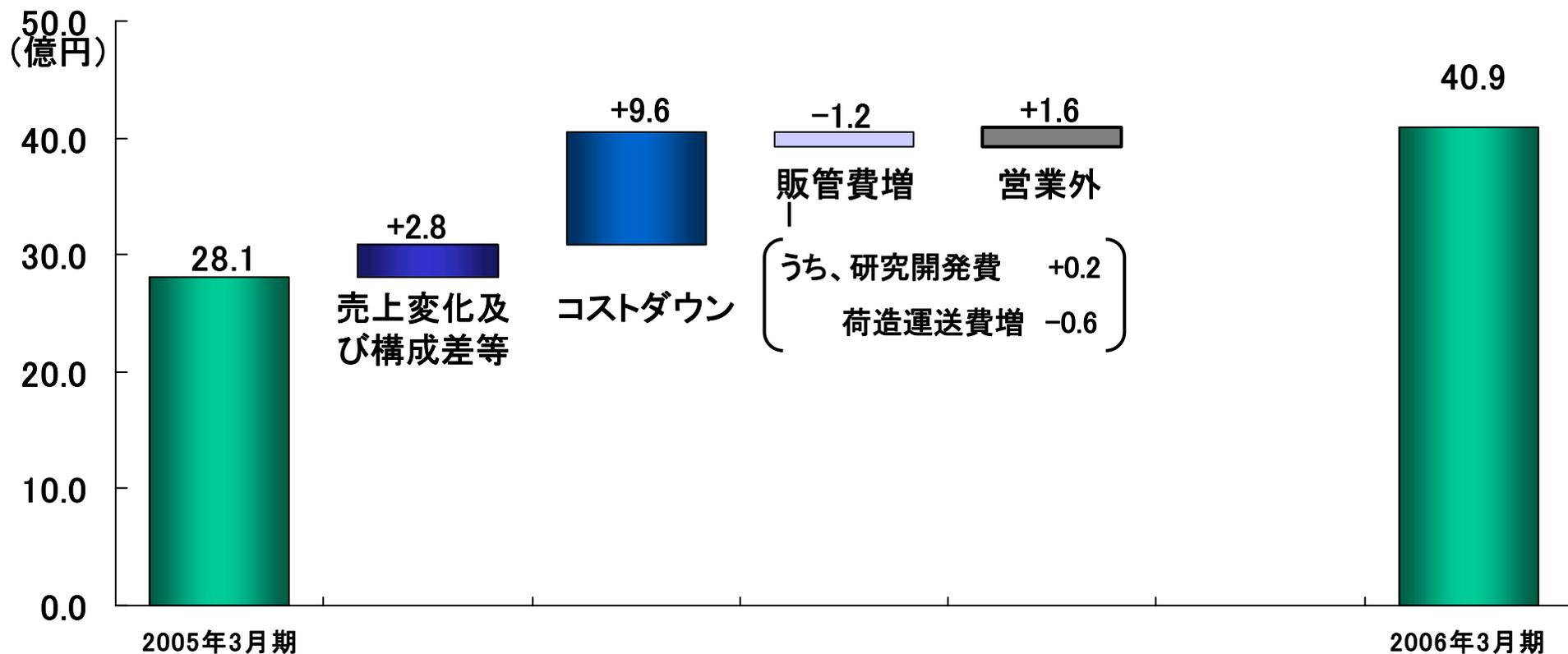


	2005年3月	2006年3月	増減 (伸び率)	コメント
売上高	2,268億円	2,240億円	-27.9億円 (-1.2%)	完成車事業 -48.3億円 部品事業 +20.4億円
営業利益 (対売上高比率)	27.4億円 (1.2%)	38.6億円 (1.7%)	+11.2億円 (+41.1%)	売上変化及び構成差等 +2.8億円 コストダウン +9.6億円 販管費の増 -1.2億円
経常利益 (対売上高比率)	28.1億円 (1.2%)	40.9億円 (1.8%)	+12.8億円 (+45.7%)	営業利益の増 +11.2億円 金融収支の改善 +1.6億円
当期純利益 (対売上高比率)	15.7億円 (0.7%)	24.6億円 (1.1%)	+8.9億円 (+56.8%)	経常利益の増 +12.8億円 固定資産除却損の減 +0.7億円 利益増に伴う税金の増 -4.6億円
総資産	851億円	912億円	+61億円 (+7.1%)	売上債権の増 +16億円 在庫の増 +6億円 有形固定資産の減 -19億円 投資有価証券の増 +19億円 子会社等出資の増 +37億円
株主資本	267億円	299億円	+32億円 (+11.8%)	当期純利益 +25億円 配当による減 -4億円 有価証券時価の増 +11億円
有利子負債	221億円	232億円	+11億円 (+4.8%)	—

2006年3月期 経常利益変化(単独ベース)

売上高	2,267.9	—	-27.9	—	2,240.0
(完成車事業)	(1,355.5)				(1,307.2)
(部品事業)	(912.4)				(932.8)

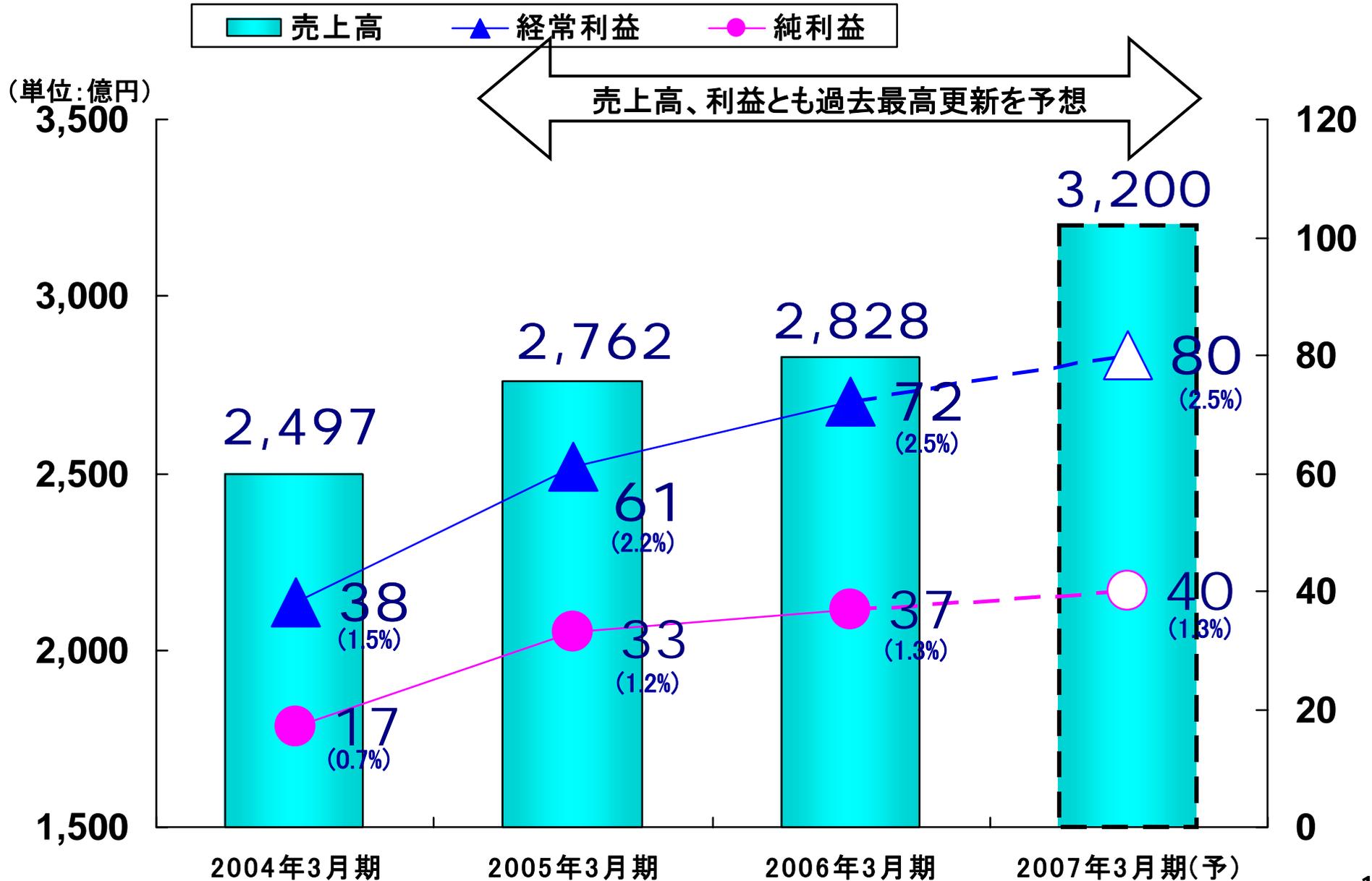
生産台数	1,268.6千台	—	-25.9千台	—	1,242.7千台
(内、完成車事業)	(219.1千台)		(-13.6千台)		(205.5千台)

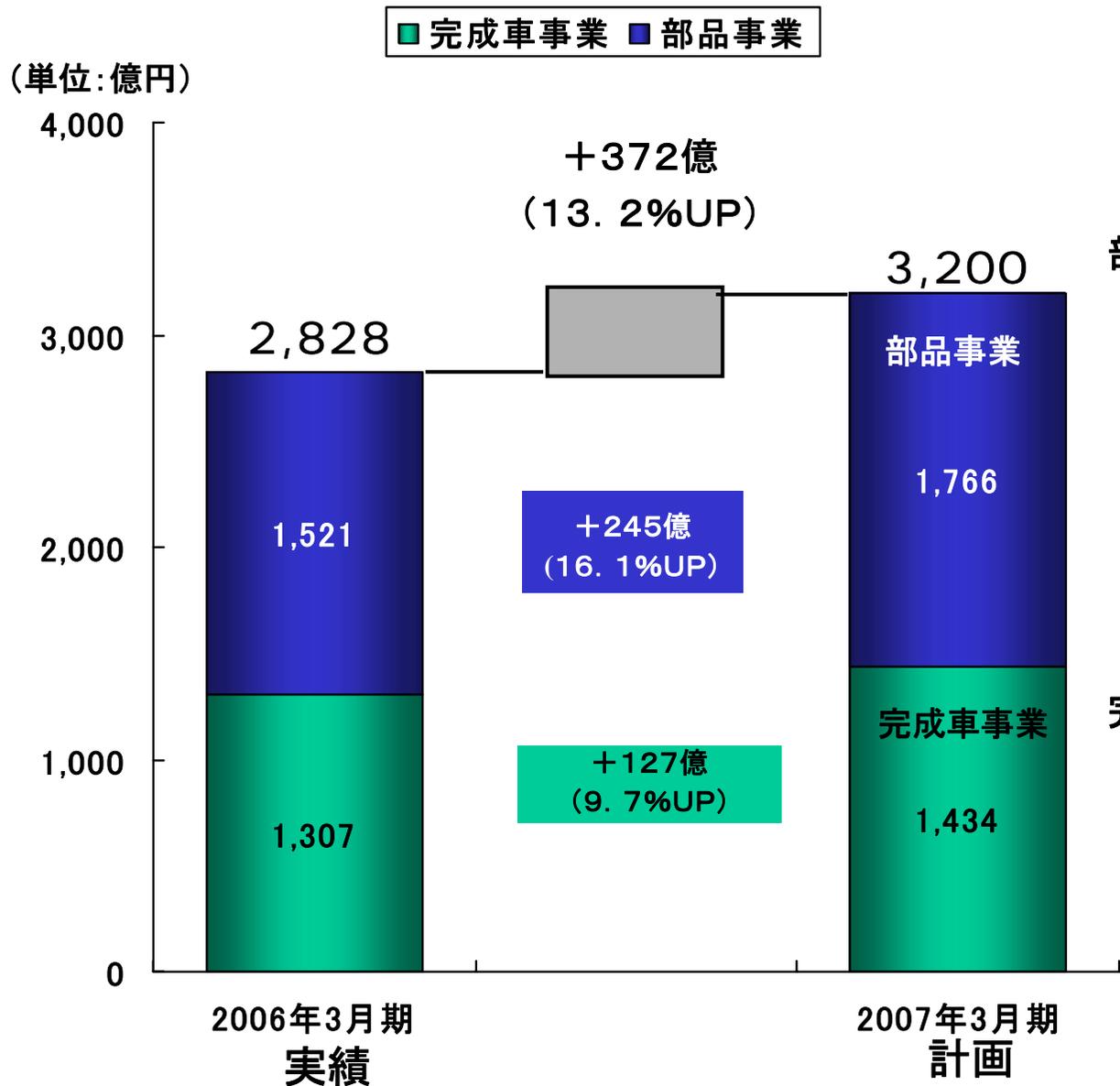


2007年3月期 決算予想

	2006年3月期 実績	2007年3月期 予想	増減 (伸び率)
売上高	2,828億円	3,200億円	+372.2億円 (+13.2%)
営業利益 (対売上高比率)	65.5億円 (2.3%)	86.0億円 (2.7%)	+20.5億円 (+31.4%)
経常利益 (対売上高比率)	71.9億円 (2.5%)	80.0億円 (2.5%)	+8.1億円 (+11.3%)
当期純利益 (対売上高比率)	36.9億円 (1.3%)	40.0億円 (1.3%)	+3.1億円 (+8.5%)

第9次中期進捗状況 売上高・収益(連結ベース)

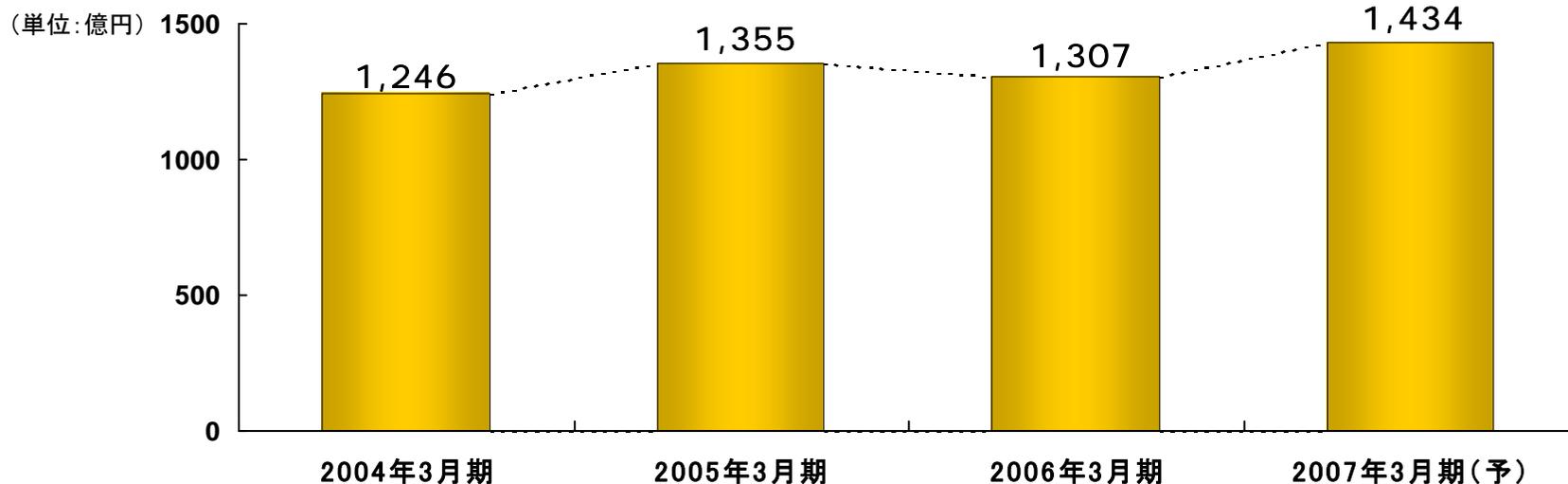




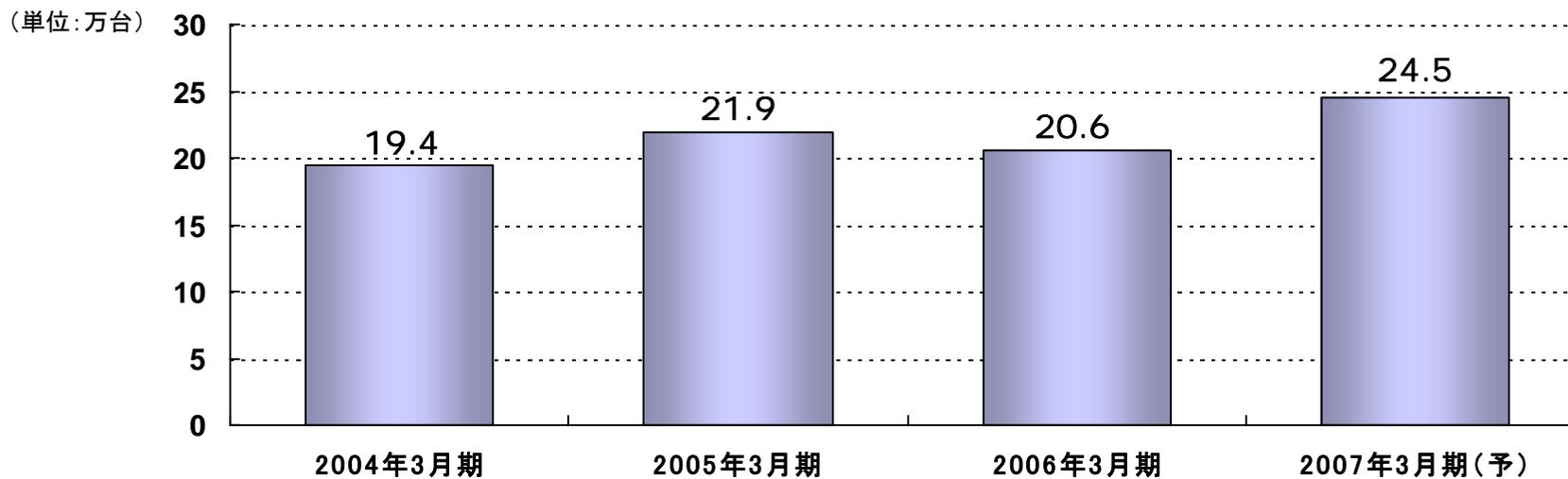
ポイント

- | | |
|-------------|-------------|
| 部品事業 | +245 |
| ・ 日本 | +52 |
| ・ 北米 | +124 |
| ・ アジア | +69 |
| 完成事業 | +127 |
| ・ 台数増 | +254 |
| (+39.9千台) | |
| ・ モデルミックス | -127 |

売上高



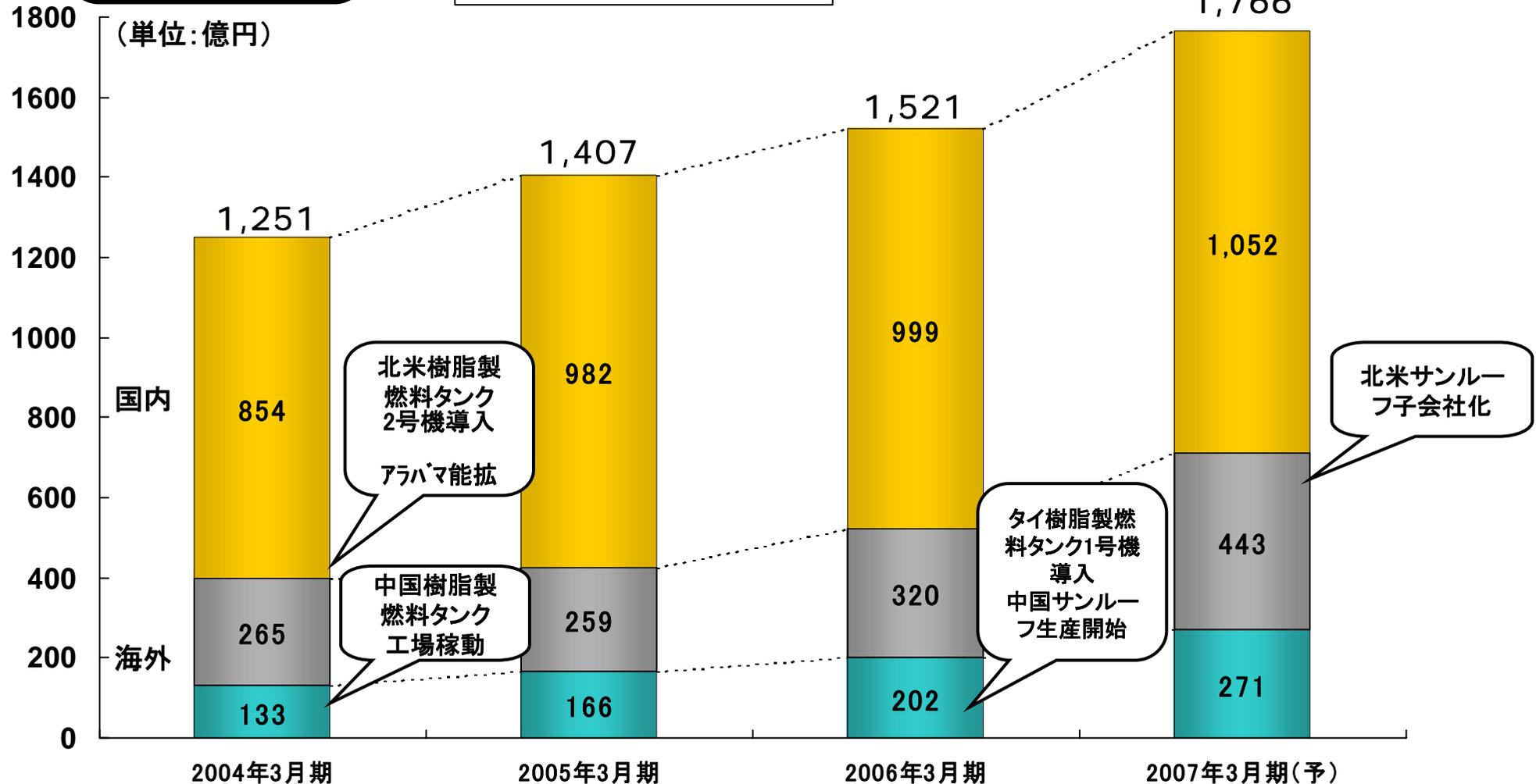
組立台数推移



部品事業売上高

国内／海外区分

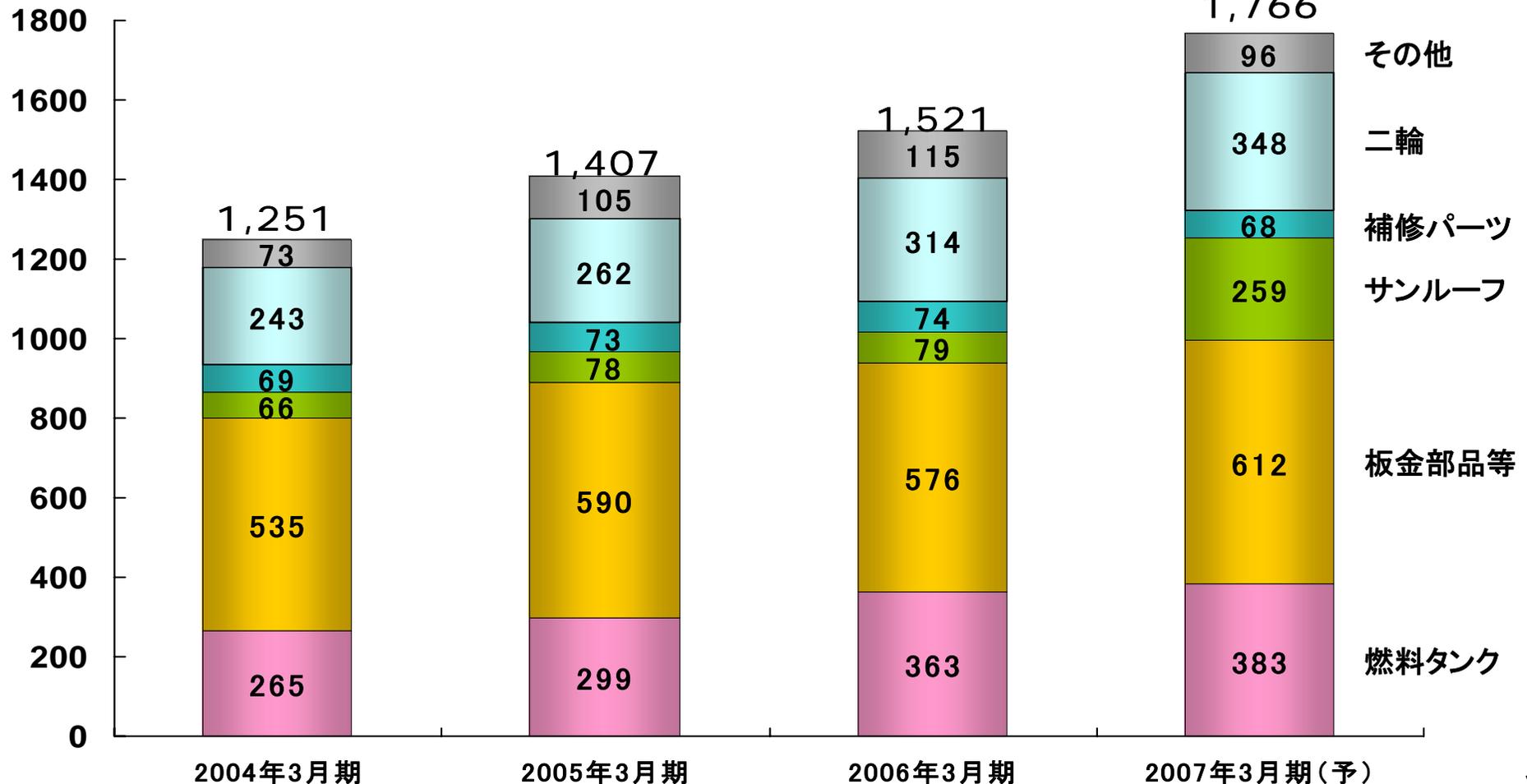
■ アジア・中国 ■ 北米 ■ 国内



売上高

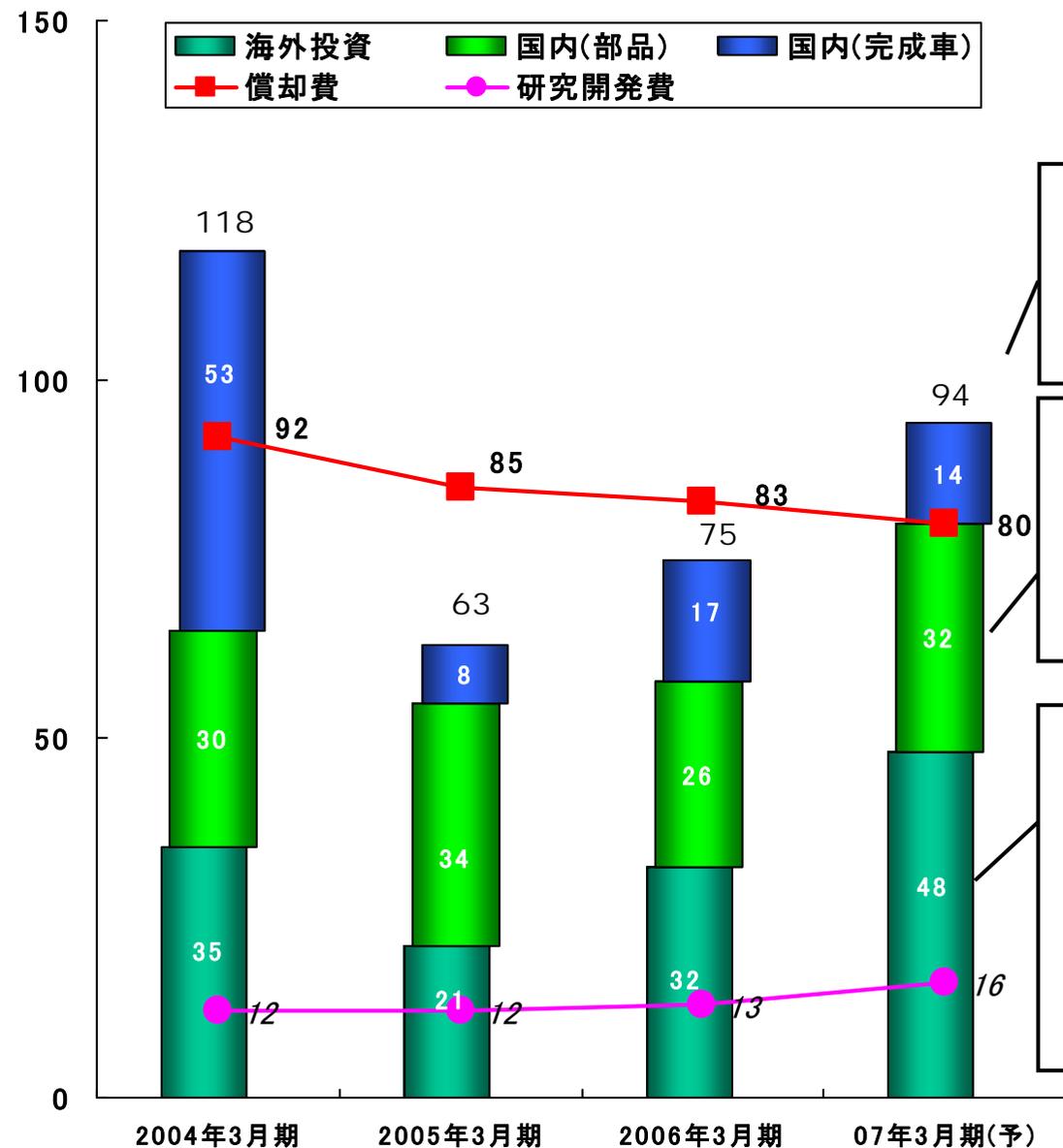
部品別区分

(単位:億円)



設備投資状況

(単位:億円)



【07年3月期計画の主な内容】

【国内】46.1億円

- 完成車事業 (14.4億円) —
 - ・ 体改・能拡
 - ・ 省人・合理化
 - ・ 更新他

- 部品事業 (31.7億円) —
 - ・ 新機種金型・治検具
 - ・ 体改(鈴鹿樹脂)
 - ・ 省人・合理化・能拡
 - ・ 更新他

【海外】47.9億円

- ・ 新機種
- ・ SYC, YZM能拡
- ・ YWM建屋・設備
- ・ YOM体改
- ・ GTA能拡、合理化他
- ・ 更新他

【合計】94.0億円

更新・安全
環境他

新機種
合理化
能拡等

	一般	新機種/能拡
【国内】46.1億円		
— 完成車事業 (14.4億円) —	(5.6)	(8.8)
・ 体改・能拡		5.4
・ 省人・合理化		3.4
・ 更新他	5.6	
— 部品事業 (31.7億円) —	(11.6)	(20.1)
・ 新機種金型・治検具		8.5
・ 体改(鈴鹿樹脂)		4.5
・ 省人・合理化・能拡		7.1
・ 更新他	11.6	
【海外】47.9億円		
・ 新機種	(6.3)	(41.6)
・ SYC, YZM能拡		15.8
・ YWM建屋・設備		10.2
・ YOM体改		2.7
・ GTA能拡、合理化他		7.1
・ 更新他	6.3	
【合計】94.0億円	23.5	70.5

代表取締役社長

大竹 茂

第9次中期経営計画

(2005年4月1日～2008年3月31日)

グローバルベースでの競争が激化

経済環境

◆さまざまな情勢や原油及び原材料価格の高騰による影響、為替の動向など不透明な部分も多く、国内外とも予断を許さない状況にあります。

自動車業界

- ◆生き残りをかけたグローバルベースでの競争が一段と激化
～日本、北米、欧州の成熟市場からアジア・中国市場への進出が加速
- ◆環境及び安全面に配慮した技術開発が加速
～低燃費技術の開発
～代替エネルギー製品の開発
～リサイクル対応技術の開発

自動車部品業界

- ◆コスト競争に勝ち残る生産技術の確立
- ◆環境及び安全面に配慮した技術開発

八千代の取り組み

- コスト競争に勝ち残る生産技術の確立
- 環境及び安全面に配慮した技術の開発と製品化
- 品質の一層の向上

グローバルベースで競争力のある
『自立した企業体質の構築』

グローバルベースでの競争に生き残っていくためには

お客様視点で競争力のある製品を提供し続ける

お客様視点で競争力のある製品とは

卓越した技術力

競争力のある価格

信頼性の高い品質



〈全社方針〉

競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

- ・ 環境規制に対応した製品の開発
- ・ 生産技術、生産現場での体質改革を更に進化させ、
「製造技術の向上」、「コスト競争力の向上」、「品質の一層の向上」

などに取り組んでいく

〈全社方針〉 **競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る**

〈全社課題〉
 完成車事業 : 更なる体質強化による自前自立の足固め
 部品事業 : 完成車との共創展開による生産効率の追求
 品質保証 : お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

	完成車事業	部品事業	品質保証
〈重点課題〉	柔軟な生産体質構築 コスト削減	生産体質向上 業容拡大	製品品質向上 生産ライン安定化
〈重点施策〉	<ul style="list-style-type: none"> ①体質改革ラインの進化 ②極限の品質レベル追求 ③自前化に向けた人づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①燃料タンク領域 <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂製燃料タンク量的拡大 ・環境規制対応製品の投入 ②サンルーフ領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軽量、低作動音、低コスト化 ・ラインナップの充実 ③板金領域 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス、溶接体質の高効率化 ④二輪領域 <ul style="list-style-type: none"> ・国内生産体質改革 ・環境規制対応製品の投入 	<ul style="list-style-type: none"> ①桁違い品質の実現 ②QCD体質改革の強化

〈全社方針〉

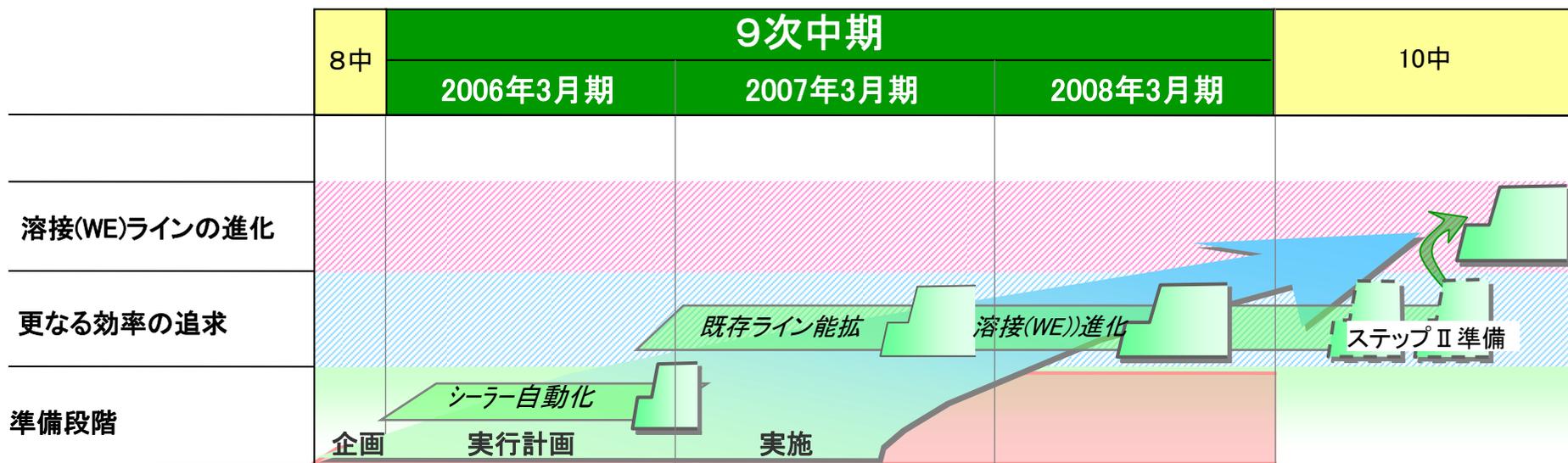
競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

〈全社課題〉

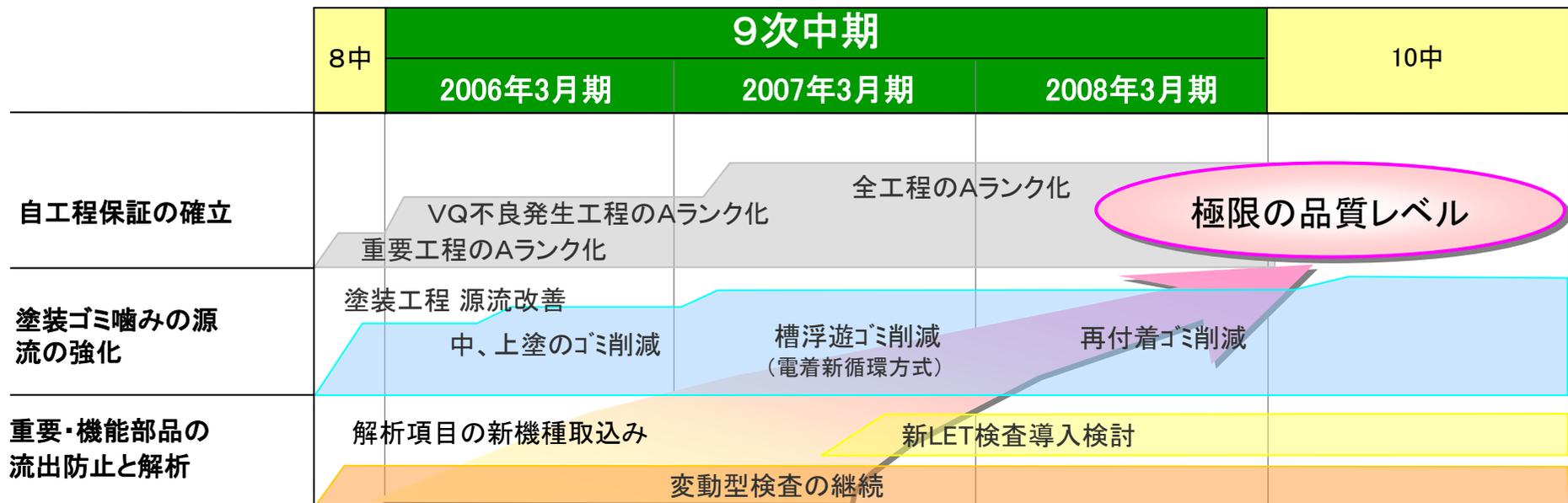
完成車事業 : 更なる体質強化による自前自立の足固め
部品事業 : 完成車との共創展開による生産効率の追求
品質保証 : お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

	完成車事業	部品事業	品質保証
〈重点課題〉	柔軟な生産体質構築 コスト削減	生産体質向上 業容拡大	製品品質向上 生産ライン安定化
〈重点施策〉	<ul style="list-style-type: none"> ①体質改革ラインの進化 ②極限の品質レベル追求 ③自前化に向けた人づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①燃料タンク領域 <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂タンク量の拡大 ・環境規制対応製品の投入 ②サンルーフ領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軽量、低作動音、低コスト化 ・ラインナップの充実 ③板金領域 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス、溶接体質の高効率化 ④二輪領域 <ul style="list-style-type: none"> ・国内生産体質改革 ・環境規制対応製品の投入 	<ul style="list-style-type: none"> ①桁違い品質の実現 ②QCD体質改革の強化

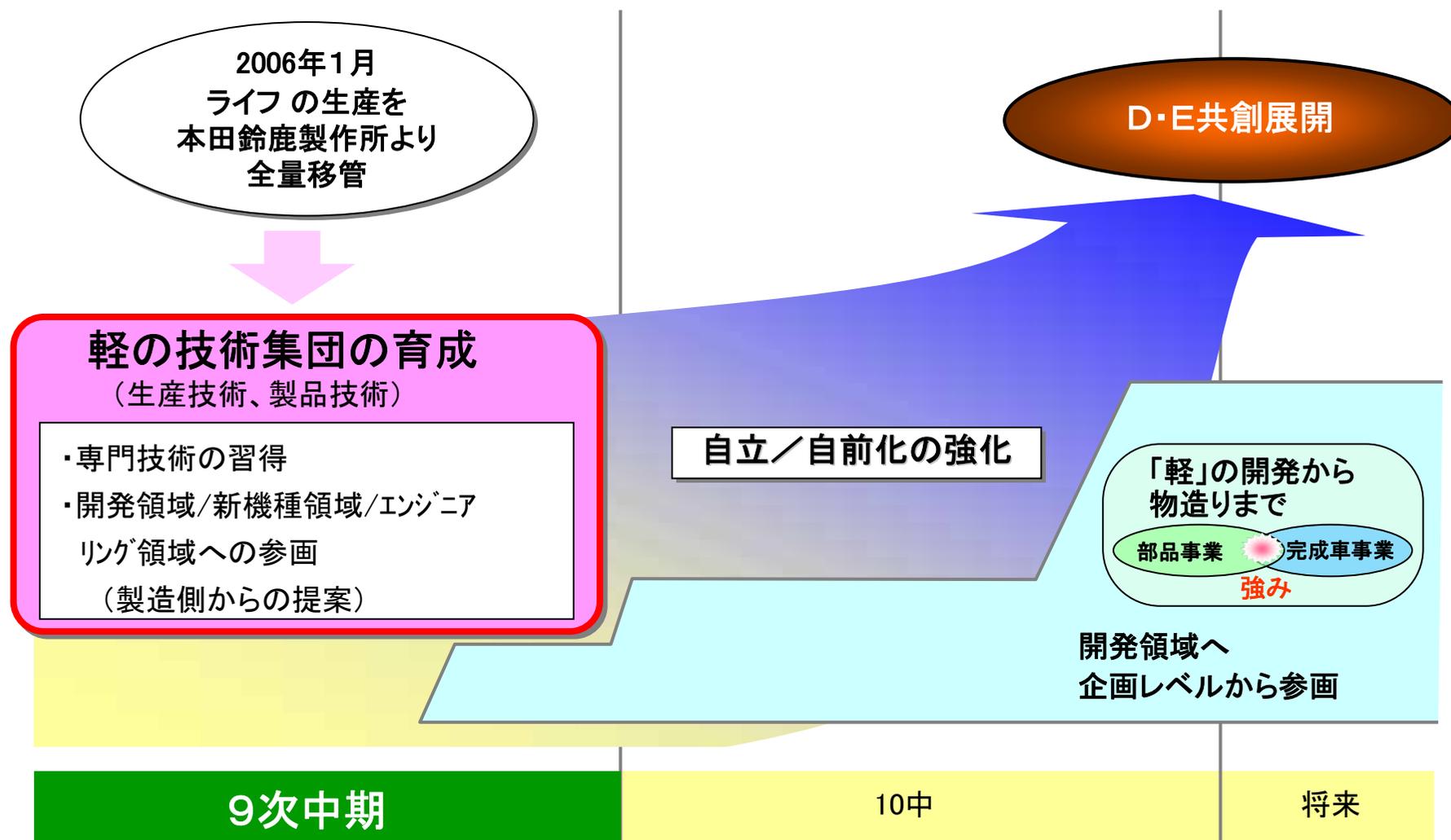
生産変動に強い柔軟な生産体制の構築を図り、圧倒的なコスト競争力の実現を目指します。



徹底した源流改善展開を行い、お客様の目線を越えた品質の確保とトレサビリティに伴う管理強化を図っていきます。



新機種開発段階において、製造する側からの提案ができる「軽」造りの技術者集団の育成を進めます。



<全社方針>

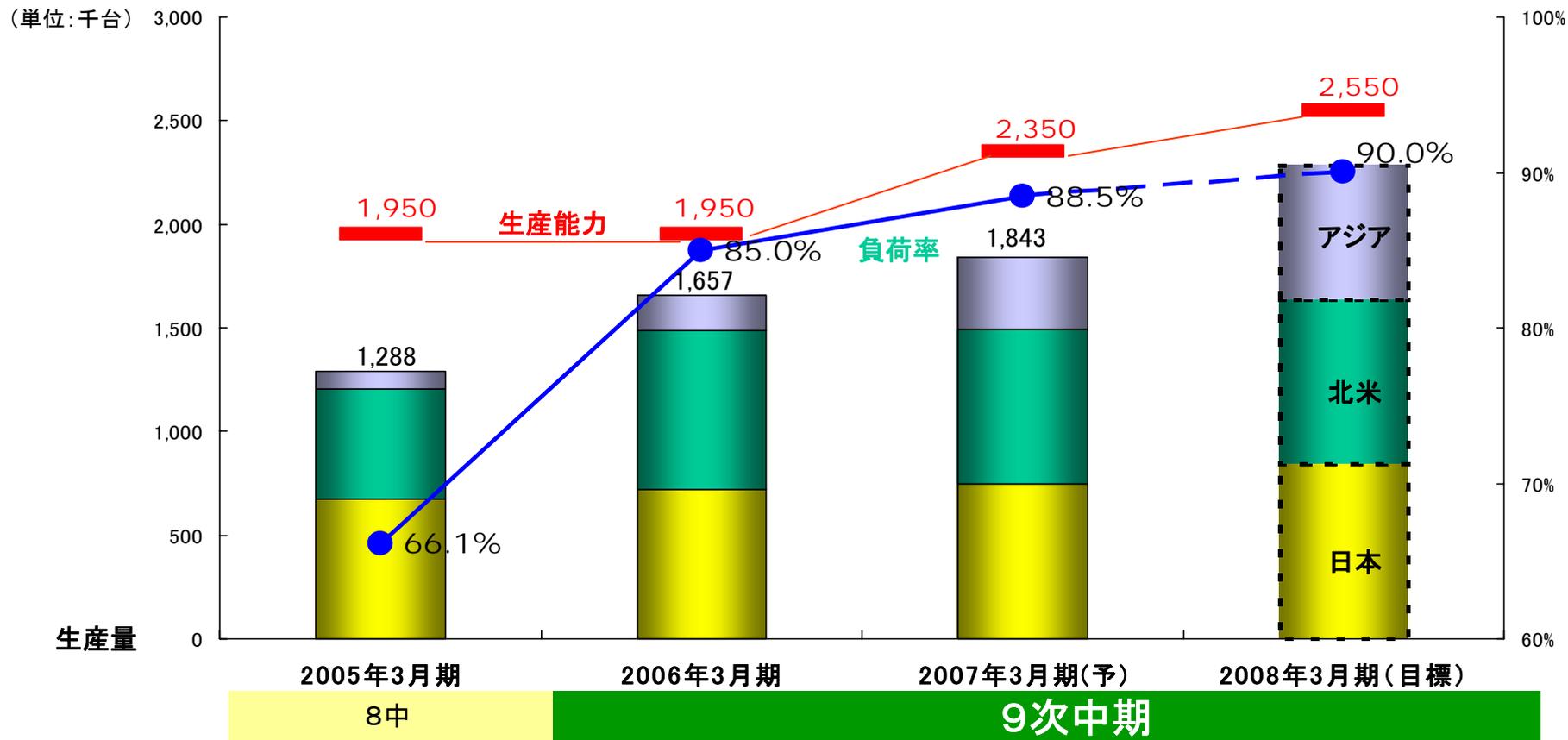
競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

<全社課題>

- 完成車事業 : 更なる体質強化による自前自立の足固め
- 部品事業 : 完成車との共創展開による生産効率の追求
- 品質保証 : お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

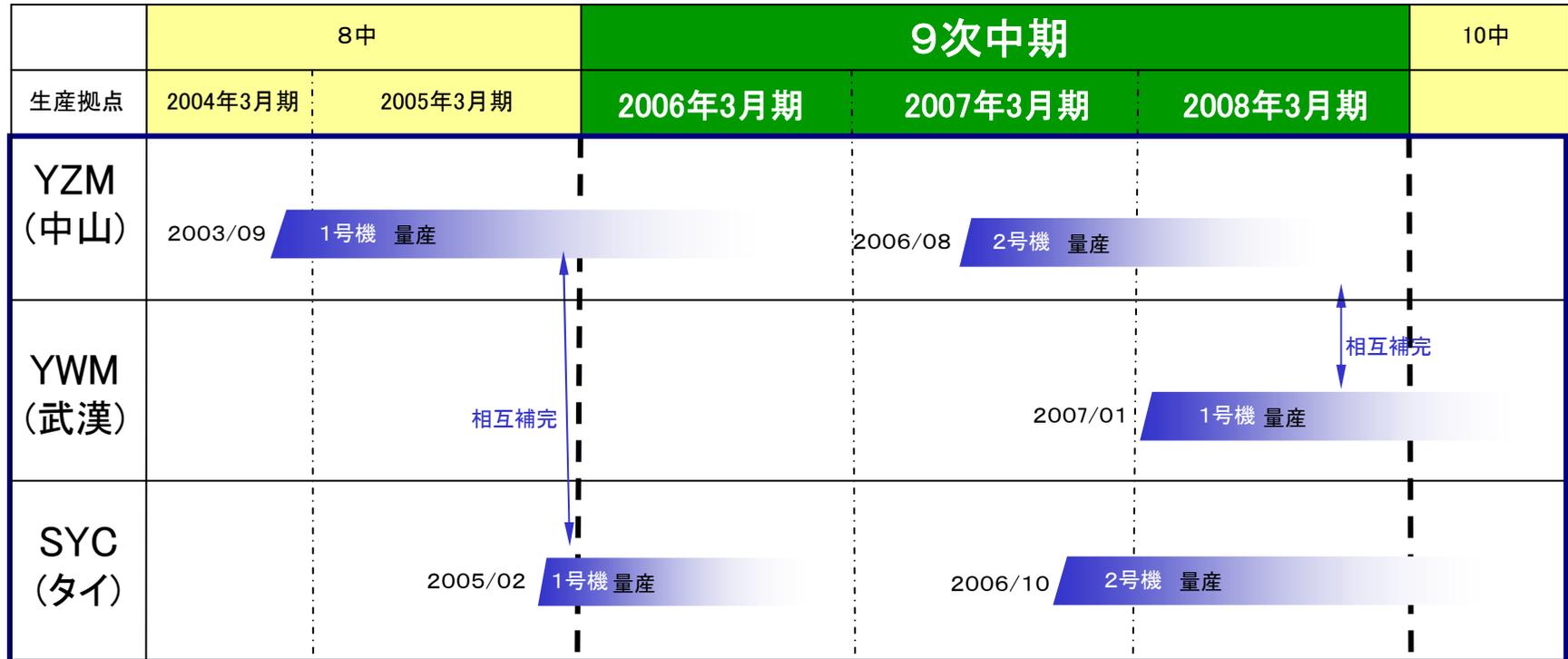
	完成車事業	部品事業	品質保証
<重点課題>	柔軟な生産体質構築 コスト削減	生産体質向上 業容拡大	製品品質向上 生産ライン安定化
<重点施策>	<ul style="list-style-type: none"> ①体質改革ラインの進化 ②極限の品質レベル追求 ③自前化に向けた人づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①燃料タンク領域 <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂製燃料タンクの量的拡大 ・環境規制対応製品の投入 ②サンルーフ領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軽量、低作動音、低コスト化 ・ラインナップの充実 ③板金領域 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス、溶接体質の高効率化 ④二輪領域 <ul style="list-style-type: none"> ・国内生産体質改革 ・環境規制対応製品の投入 	<ul style="list-style-type: none"> ①桁違い品質の実現 ②QCD体質改革の強化

量的拡大 更に量的拡大(生産能力拡大・稼働率向上)を図ります。



能力30%アップ、生産量78%アップ(2005/3比)
伸びの中心はアジア地区
負荷率66%→90%へ大幅アップ(2005/3比)

生産展開計画

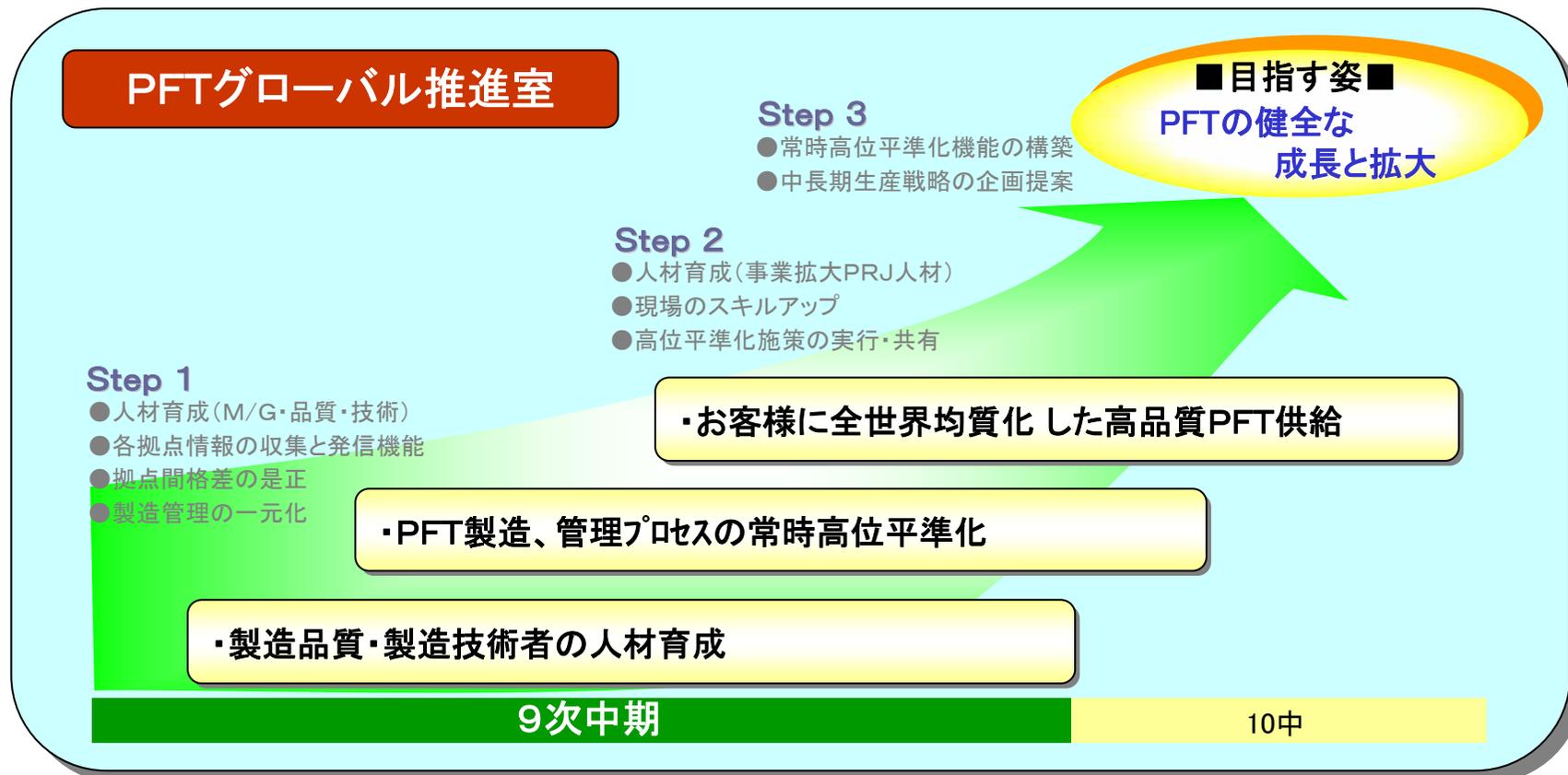


■環境規制対応製品の投入を図ります。

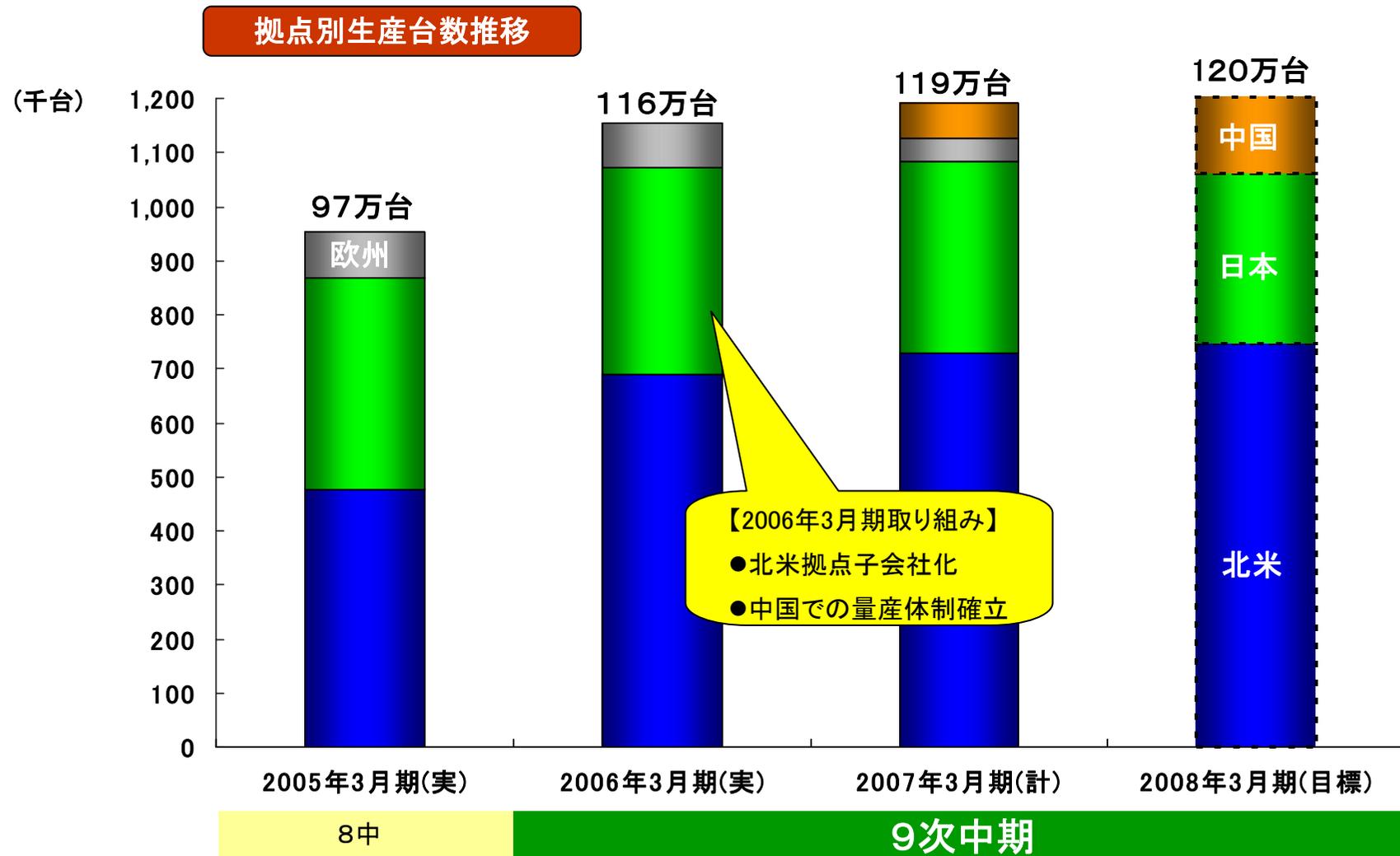
※PFT＝樹脂製燃料タンク

- ・ 燃料タンクのトップレベルのメーカーを目指し、技術を蓄積し、お客様のニーズをタイムリーに製品に反映していきます。
- ・ PFTの特性を活かした新製品の開発、多様化する燃料への対応技術の開発にも取り組んでいきます。

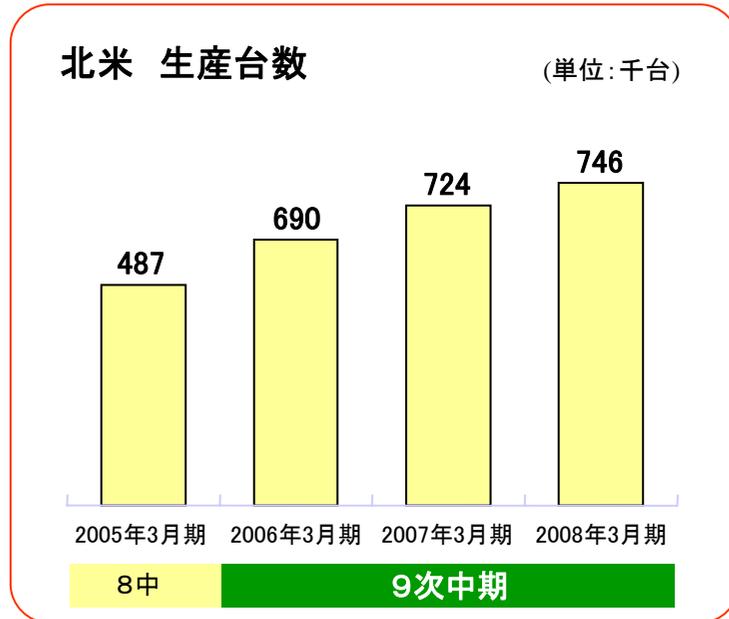
■お客様に全世界均質化した高品質PFTの供給を行うことを目指します。



軽量・低作動音・低コスト化による競争力のある製品の提供を行い、量的拡大を図ります。

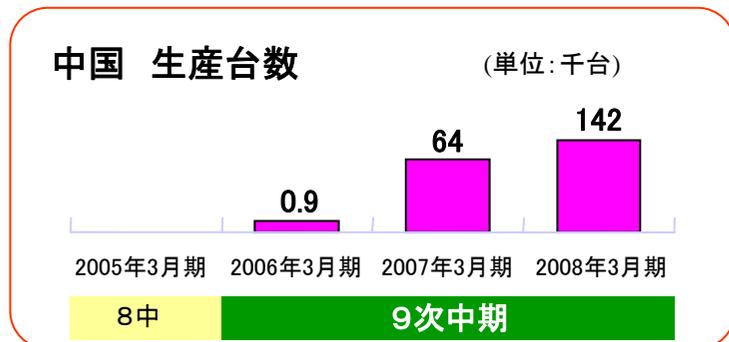


■ 北米市場: お客様ニーズに迅速に対応できるよう現地開発機能を強化します。



- ・ AYMの100%子会社化 (2005年10月)
- ・ 現地開発体制強化

■ 中国市場: 部品の現地調達体制を整備し、競争力のある部品の調達を目指します。



- ・ CKD生産→中国現調化推進
- ・ 部品のグローバル供給拠点化

開発面では市場ニーズの動向変化に対応したラインナップの充実を目指します。



海外生産部品



ルーフパネル



インナーピラー

国内生産部品



足回り部品



ルーフレール



リヤピラー

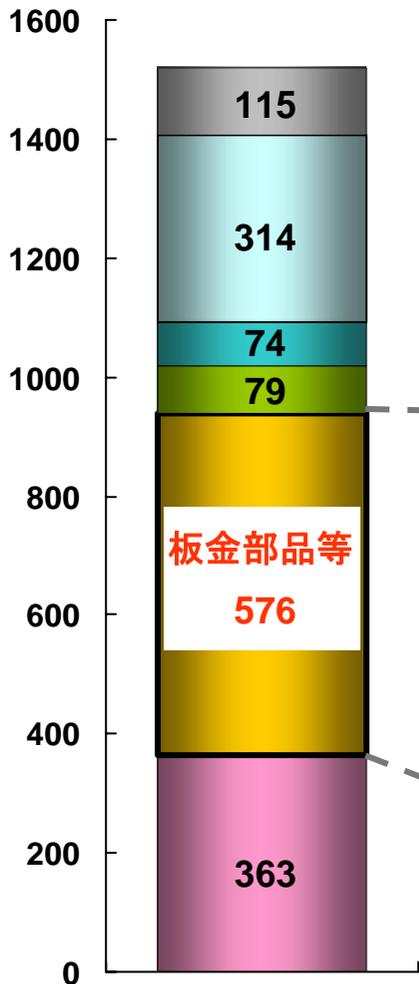


サイドレール

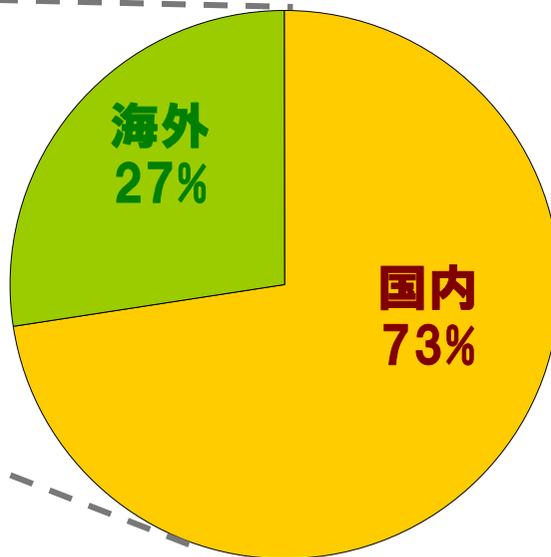


インパネ

(売上高:億円)



06年3月期



板金領域ではプレス・溶接体質の高効率化に取り組めます。

課題と施策

国内

課題 コスト競争力・マザー機能の強化

施策 プレス : 設備の統廃合と高効率設備の導入

溶接 : 徹底した効率追及による競争力の向上

北米

課題 コスト競争力の強化とQCD生産体質の高位平準化

施策 プレス : 最適アロケーションの構築と体質改革

溶接 : 体質改革の推進

アジア

課題 事業の拡大

施策 合志技研とのシナジー効果で、板金部品事業の拡大

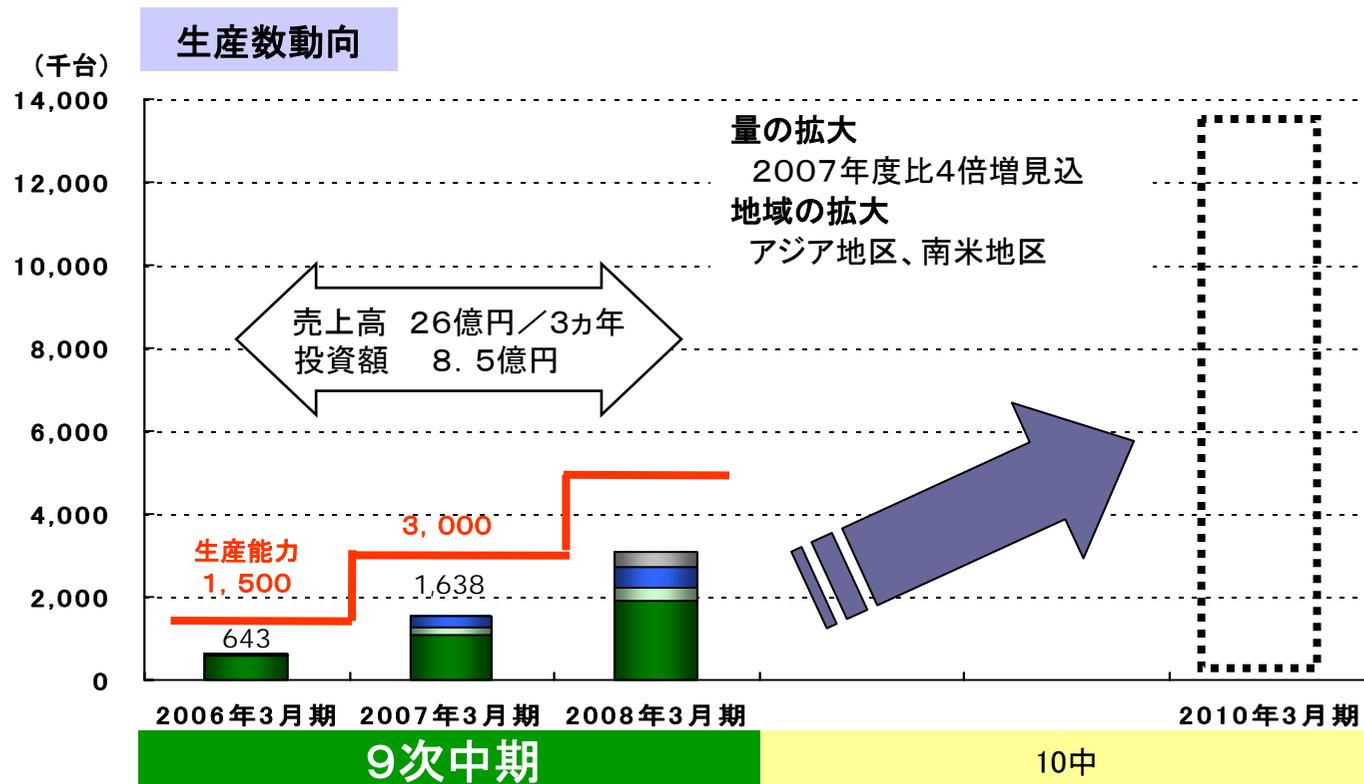
国内(合志技研)での生産体質改革に取り組みます。

国内での生産体質改革

プレス 高効率M/Cへの負荷集約
溶接 多機種少量生産ラインの構築

環境対応製品の投入を他のアジア地域へ展開していきます。(二輪キャタライザーの投入)

環境規制対応製品の投入



〈全社方針〉 **競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る**

〈全社課題〉

- 完成車事業 : 更なる体質強化による自前自立の足固め
- 部品事業 : 完成車との共創展開による生産効率の追求
- 品質保証 : お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

	完成車事業	部品事業	品質保証
〈重点課題〉	柔軟な生産体質構築 コスト削減	生産体質向上 業容拡大	製品品質向上 生産ライン安定化
〈重点施策〉	<ul style="list-style-type: none"> ①体質改革ラインの進化 ②極限の品質レベル追求 ③自前化に向けた人づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①燃料タンク領域 <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂タンク量的拡大 ・環境規制対応製品の投入 ②サンルーフ領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軽量、低作動音、低コスト化 ・ラインナップの充実 ③板金領域 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス、溶接体質の高効率化 ④二輪領域 <ul style="list-style-type: none"> ・国内生産体質改革 ・環境規制対応製品の投入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 桁違い品質の実現 ② QCD体質改革の強化

「お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立」に向けて

「製品品質向上」と「生産ライン安定化」を目指します。

製品品質向上

《製品品質領域》

品質ベスト定着

生産ライン安定化

《品質体質領域》

強い生産体質

桁違い品質の再チャレンジ
『安定生産なくして品質なし』

重要品質不具合の
絶対流出防止展開

QCD体質強化
の全社水平展開

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のようなものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害